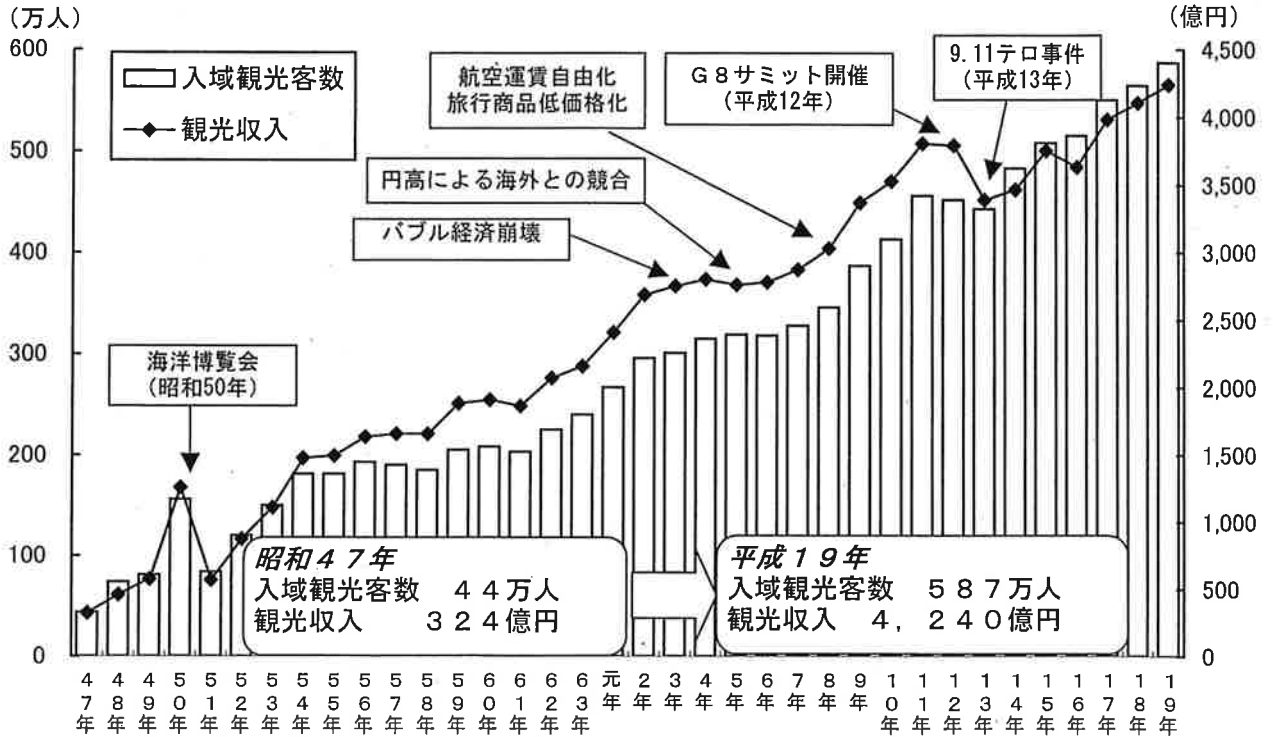


I 沖縄観光の動向と施策展開

1 沖縄観光の推移

(1) 概況



※推計方法の改訂等があったため、平成17年度に昭和51年から平成13年までの観光収入を遡及修正した。

戦後～本土復帰	<p><慰霊訪問団(墓参観光)が中心></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本本土から沖縄への旅行にはパスポートが必要であった。 ・沖縄本土復帰(昭和47年5月)
本土復帰～1970年代 【昭和47年～昭和54年】	<p><海洋博を契機として、沖縄が観光地として定着></p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄国際海洋博覧会開催(昭和50年) ・団体包括割引運賃制度開始(昭和52年～) ・航空会社が本格的な沖縄キャンペーン開始(昭和52年～)
1980年代 【昭和55年～平成元年】	<p><リゾートホテルの開業相次ぐ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2次オイルショック(昭和54年)や円高不況(昭和58年～62年頃)の影響を受けながらも、緩やかに観光客数増加。 ・昭和62年に施行された総合保養地域整備法によるリゾートブーム。
1990年代 【平成2年～平成11年】	<p><バブル景気後の伸び悩み期を経て、航空運賃の自由化や旅行商品の低価格化が進展したことにより急激に観光客数増加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バブル経済崩壊(平成3年)→平成不況 ・首里城公園開園(平成4年) ・急激な円高による海外との競合(平成5年) ・1990年代後半頃から沖縄出身アーティストが躍進。沖縄への注目高まる。
2000年代 【平成12年～】	<p><世界情勢の影響を受けながらも、沖縄人気定着></p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県において「九州・沖縄サミット首脳会合」開催(平成12年) ・NHK「ちゅらさん」放映開始(平成13年) ・9.11アメリカ同時多発テロ事件の影響による風評被害 →「だいじょうぶさー沖縄」キャンペーン実施(平成13年) ・「沖縄美ら海水族館」リニューアルオープン(平成14年) ・SARS拡大、イラク戦争勃発。(平成15年) ・沖縄都市モノレール「ゆいレール」開業(平成15年) ・米州開発銀行(IDB)等年次総会開催(平成17年) ・沖縄型特定免税店「DFSギャラリア・沖縄」オープン(平成17年) ・本土復帰後の累計入域観光客数が1億人を突破(平成19年)

(2) 主なトピックス(年次別)

元号	西暦	観光客数(人)	事項
昭和31	1956	13,204	
35	1960	20,811	・琉球政府工務交通局陸運課に観光係を新設
40	1965	64,278	・琉球政府通商産業局商工部観光課に組織改編
41	1966	85,822	
42	1967	112,117	
43	1968	147,047	・沖縄観光開発事業団設立 ・(社)沖縄県観光連盟設立(沖縄観光協会・S29を発展的解消)
44	1969	169,238	
45	1970	172,349	・海中展望塔オープン
46	1971	203,769	
47	1972	443,692	・沖縄、本土復帰 ・沖縄観光開発事業団を解散、(財)沖縄県観光開発公社を設立
48	1973	742,644	・沖縄県リゾート開発公社設立
49	1974	805,255	
50	1975	1,558,059	・沖縄国際海洋博覧会開催 ・那覇空港ターミナルビル完成 ・県立国民宿舎「名護浦荘」供用開始 ・「ホテルムーンビーチ」オープン
51	1976	836,108	・沖縄県観光開発基本計画策定(S51～60) ・(財)アクアポリス管理財団設立
52	1977	1,201,156	・団体包括旅行割引運賃の実施 ・JAL沖縄キャンペーン開始 ・日本ハムファイターズが沖縄デーを設定 ・「沖縄久米島イーブビーチホテル」オープン
53	1978	1,502,410	・海開き宣言開始(S53～63) ・ANA沖縄キャンペーンスタート ・JAL那覇～香港定期航空路線開設 ・「ヴィラオクマリゾート」オープン
54	1979	1,807,941	・沖縄県観光振興条例制定 ・観光開発公社とリゾート開発公社が統合 ・日本アジア航空 那覇～台北定期航空路線開設 ・日本ハムファイターズ沖縄キャンプ開始 ・「はいむるぶし」オープン
55	1980	1,808,036	・航空運賃引き上げ ・中華航空 那覇～台北定期航空路線開設
56	1981	1,930,023	
57	1982	1,898,216	・航空運賃引き上げ ・広島東洋カープ沖縄キャンプ開始
58	1983	1,851,994	・「万座ビーチリゾートホテル」オープン
59	1984	2,053,500	・花のカーニバル開催 ・「宮古島東急リゾート」オープン
60	1985	2,081,900	・日航ジャンボ機墜落事故 ・JAL札幌便(1月～3月)、ANA大分便開設
61	1986	2,028,800	・沖縄県観光振興基本計画(第2次)策定 ・国際観光モデル地区指定 ・(財)沖縄コンベンションセンター設立 ・SWAL松山便、ANA広島便開設
62	1987	2,250,700	・海のカーニバル開催 ・海邦国体開催 ・沖縄コンベンションセンター大展示棟オープン ・オキナワコンベンションビューロー設立 ・横浜大洋ホエールズ、中日ドラゴンズ沖縄キャンプ開始 ・「サンマリーナホテル」、「かりゆしビーチリゾートホテル」オープン
63	1988	2,395,400	・サントピア沖縄開催 ・コンベンションシティ指定 ・航空機利用修学旅行に国庫補助可 ・JAS東京便参入 ・SWAL岡山便開設 ・「ラマダールネッサンスリゾートオキナワ」、「残波ロイヤルホテル」オープン
平成元	1989	2,671,100	・めんそーれ県民運動推進協議会設立 ・通行税廃止 ・SWAL東京～宮古便開設
2	1990	2,958,200	・「リゾート沖縄マスタープラン」策定 ・沖縄県観光・コンベンション推進連絡協議会を設置 ・(財)アクアポリス財団解散 ・沖縄コンベンションセンター劇場棟オープン ・第1回世界のウチナーンチュ大会開催 ・めんそーれ県民運動推進協議会より「かりゆしウェア」の名称を発表 ・JAL名古屋便開設
3	1991	3,014,500	・「沖縄トロピカルリゾート構想」承認 ・SWAL小松便開設
4	1992	3,151,900	・沖縄県観光振興基本計画(第3次)策定 ・首里城公園開園 ・SWAL大阪～宮古便、名古屋便、山形便開設 ・アジア航空 那覇～ソウル定期航空路線開設 ・オリックスブルーウェーブ沖縄キャンプ開始 ・「ラグナガーデンホテル」オープン
5	1993	3,186,800	・沖縄コンベンションセンター及び県観光開発公社の副理事長職を常勤化

元号	西暦	観光客数(人)	事項
平成5	1993		・JTA東京～石垣便 ANA高松便開設 ・「ロワジールホテル」、「リザンシーパークホテル」オープン
6	1994	3,178,900	・沖縄県観光開発公社と沖縄県観光連盟が統合し(財)沖縄ビジターズビューロー設立 ・(財)沖縄ビジターズビューローと(財)台湾観光協会が「観光協力に関する協定書」締結 ・パレットくもじ観光案内所設置 ・(財)沖縄マリンセーフティービューロー設立 ・JTA大阪～石垣便、JAL福島便開設 ・「ホテル日航アリビラ」オープン
7	1995	3,278,900	・「沖縄県観光振興基本計画中期行動計画」策定 ・沖縄デスティネーション開発協議会開催 ・「美ら島おきなわ観光宣言」 ・OVB韓国事務所、台湾事務所開設 ・「大琉球・まつり王国」の開催 ・第2回世界のウチナーンチュ大会開催 ・「かりゆしアーバンリゾート那覇」オープン
8	1996	3,459,500	・ANA新潟便 JAS大阪便開設 ・(財)沖縄ビジターズビューロー、(財)沖縄コンベンションセンター、オキナワコンベンションビューローの観光3団体を統合し(財)沖縄観光コンベンションビューロー発足 ・プロ野球教育リーグ「ハイサイ沖縄リーグ」開催 ・TAP90'Sの開催
9	1997	3,867,200	・「世界帆船フェスティバルin沖縄」開催 ・プロ野球「ファーム日本選手権」開催 ・ANK福岡～石垣便他、10路線開設 ・「カヌチャベイホテル」、「ザ・プセナテラスビーチリゾート」オープン
10	1998	4,126,500	・沖縄出身アーティストの躍進 ・沖縄で「第2回島嶼観光政策フォーラム」、「第10回アジアベテランズ陸上競技選手権大会」開催 ・ANK福岡便、ANK広島～石垣便、JAS青森便、JTA高知便開設
11	1999	4,558,700	・沖縄特定免税店(那覇空港内)オープン
12	2000	4,521,200	・万国津梁館完成 ・「九州・沖縄サミット首脳会合」開催 ・「琉球王朝グスク及び関連遺産群」世界遺産登録 ・沖縄県平和記念資料館開館 ・第1回沖縄の観光を考える百人委員会開催 ・ヤクルトスワローズキャンプ沖縄開始
13	2001	4,433,400	・中国西北航空 那覇～上海定期航空路線開設 ・NHK連続朝のテレビ小説「ちゅらさん」放映により沖縄の注目度が急上昇
14	2002	4,834,500	・9.11米国同時多発テロ事件に伴う修学旅行を中心としたキャンセルが相次ぎ県経済に打撃 ・「沖縄県観光振興基本計画」、「沖縄県観光振興計画」策定 ・沖縄で「第6回島嶼観光政策フォーラム」開催 ・復帰30周年記念「全国エイサー道ジュネー」実施 ・「沖縄美ら海水族館」リニューアルオープン ・那覇空港内に沖縄ディーエフエス株式会社の免税店開業
15	2003	5,084,700	・SARS問題、イラク戦争勃発 ・万国津梁館オーシャンホール完成 ・阪神タイガースキャンプ開始 ・沖縄都市モノレール「ゆいレール」開業 ・フィリピン航空 那覇～マニラ定期航空路線開設
16	2004	5,153,200	・「国立劇場おきなわ」オープン
17	2005	5,500,100	・空港外免税店「DFSギャラリア・沖縄」オープン ・東北楽天ゴールデンイーグルス、久米島キャンプ開始 ・「第2次沖縄県観光振興計画」策定 ・第46回米州開発銀行年次総会(IDB)開催 ・リゾートウェディング挙式組数国内一
18	2006	5,637,800	・スタークルーズ定期運航運休 ・神戸空港開港に伴い、JAL、ANAが神戸～那覇路線開設 ・北九州空港移転開港に伴い、JTAが北九州～那覇路線開設
19	2007	5,869,200	・本土復帰後の累計入域観光客数が1億人を突破 ・「沖縄県立博物館・美術館」開館 ・「ビジットおきなわ計画」作成開始 ・沖縄観光バリアフリー宣言 ・「喜瀬別邸」オープン ・「観光タクシー乗務員資格認定制度」開始 ・「沖縄県地域限定通訳案内士試験」開始 ・スタークルーズ定期運航再開
20	2008		・「第3次沖縄県観光振興計画」策定 ・千葉ロッテマリーンズ、石垣キャンプ開始 ・「沖縄県観光まちづくり指針」作成 ・香港エクスプレス航空 香港～那覇路線開設 ・沖縄を舞台としたディズニーアニメ「スティッチ！」テレビ放映 ・「第12回島嶼観光政策フォーラム」沖縄開催

2 沖縄観光の現状と課題

(1) 入域観光客数の動向

ア 入域観光客数

平成19年度 過去最高記録の589万人達成

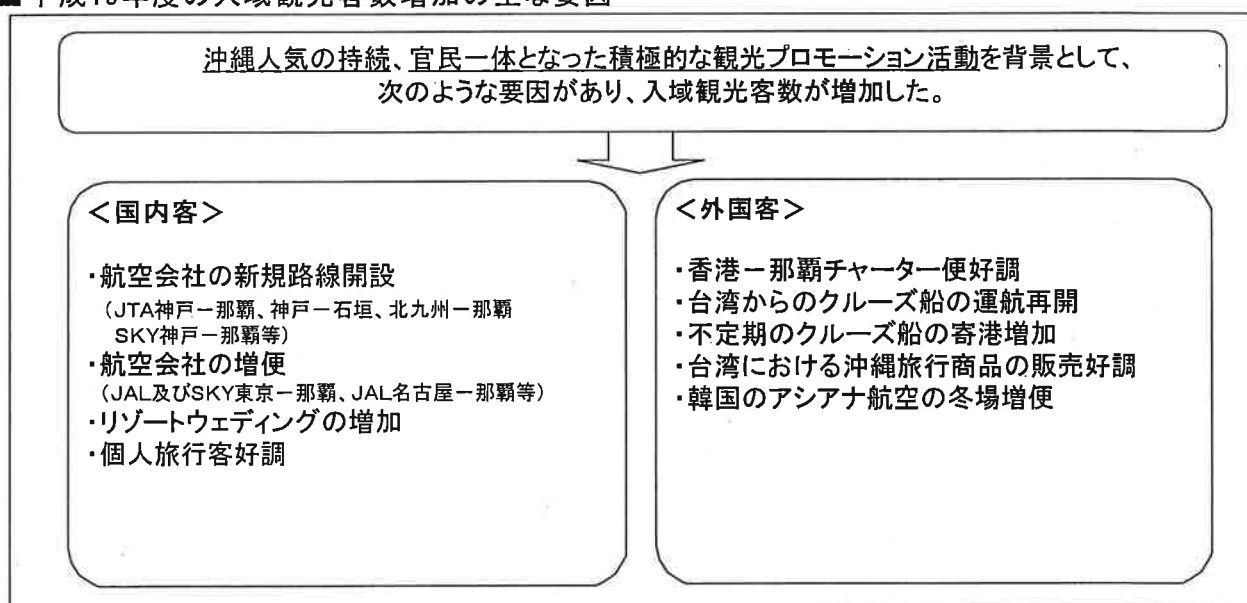
沖縄県への入域観光客数は全体としては増加基調にあり、平成19年度には589万人と過去最高記録を更新した。

外国人観光客は、SARS余波(H16年度)、定期クルーズ船の運休(H18年度)・運航再開(H19年度)などにより振幅が大きくなっているが、平成19年度には18万9千人と平成13年度以降では最高の記録となった。

■最近5年間の入域観光客数の動向

	入域観光客総数		国内		外国	
	人数(人)	対前年度比	人数(人)	対前年度比	人数(人)	対前年度比
平成15年度	5,129,700	+4.7%	5,020,900	+6.1%	108,800	△34.1
平成16年度	5,171,600	+0.8%	5,048,700	+0.6%	122,900	+13.0%
平成17年度	5,571,500	+7.7%	5,433,600	+7.6%	137,900	+12.2%
平成18年度	5,705,100	+2.4%	5,608,300	+3.2%	96,800	△29.8
平成19年度	5,892,300	+3.3%	5,703,500	+1.7%	188,800	+95.0%

■平成19年度の入域観光客数増加の主な要因



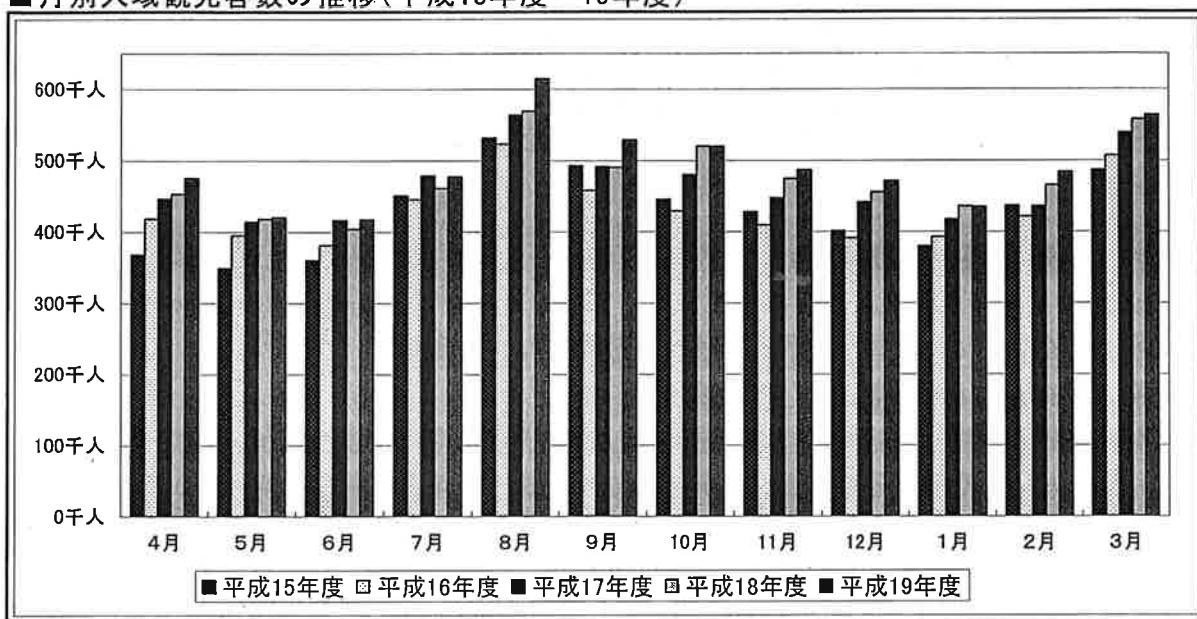
イ 月別の動向

平成19年8月 はじめて単月で60万人突破、ボトム期も底上げ

平成19年8月の入域観光客数は61万4,200人で、単月としてははじめて60万人を突破した。

また、誘客キャンペーンの実施や修学旅行の誘致、リゾートウエディングなど新規市場の開拓等により、ボトム期の底上げも図られている。

■ 月別入域観光客数の推移(平成15年度～19年度)



ウ 主な離島の入込観光客数の動向

石垣はおおむね増加傾向、宮古・久米島は伸び悩み

■ 主要離島への入込観光客数

	石垣		宮古		久米島	
	人数(人)	対前年度比	人数(人)	対前年度比	人数(人)	対前年度比
平成15年度	711,966	+13.7%	386,989	+12.5%	102,636	+18.3%
平成16年度	718,743	+1.0%	383,365	△0.9%	95,828	△6.7%
平成17年度	763,858	+6.3%	423,339	+10.4%	93,465	△2.5%
平成18年度	780,091	+2.1%	389,358	△8.0%	91,631	△2.0%
平成19年度	764,519	△2.0%	372,630	△4.3%	94,232	+2.8%

注) 宮古支庁総務・観光振興課、石垣市観光課、八重山支庁総務・観光振興課、(社)久米島町観光協会の資料に基づき沖縄県観光商工部(観光企画課)作成。

エ 航路別入域観光客数

東京方面(羽田空港など)からの入域観光客が、約半数を占めている

■平成19年度の航路別入域観光客数

	入域観光客数(人)	構成比
東京方面	2,754,200	46.7%
関西方面	1,110,300	18.8%
福岡方面	677,200	11.5%
名古屋方面	513,400	8.7%
その他の方面	837,200	14.2%
総数	5,892,300	100.0%

オ 外国人観光客の動向

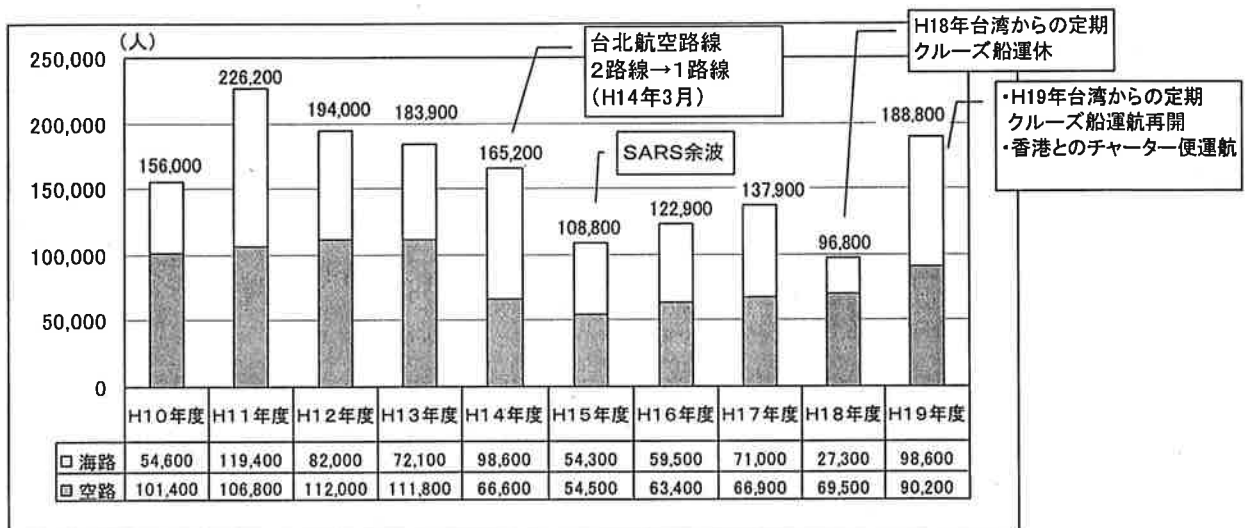
平成19年度の外国人観光客数は前年度より倍増

平成19年から香港人観光客急増

外国人観光客数は、近年、空路、海路ともに伸び悩み傾向であったが、平成19年度は、台湾からの定期クルーズ船の運航再開、香港とのチャーター便増加(平成20年4月からは定期便化された)、台湾での沖縄旅行商品の販売が好調であったこと、韓国からの冬場のゴルフ客が増加したことなどにより、前年度比で倍増となった。

平成19年に沖縄県で入国手続をした外国人を国籍別にみると、台湾人が最も多く全体の約6割を占めている。次いで、韓国人、アメリカ人、香港人の順になっている。香港人は平成19年に急増した。

■外国人観光客数の推移(空海路別)



■国籍別・空海路別入国者数

	平成15年			平成16年			平成17年			平成18年			平成19年			
	空路	海路		空路	海路		空路	海路		空路	海路		空路	海路		
総数	67,771	51,371	16,400	90,491	61,766	28,725	95,475	63,079	32,396	77,482	66,601	10,881	132,595	85,928	46,667	
内訳	中国	1,170	1,168	2	1,735	1,643	92	1,734	1,595	139	3,033	2,106	927	3,922	2,170	1,752
	台湾	43,122	33,171	9,951	66,495	40,618	25,877	68,763	41,853	26,910	41,298	40,479	819	79,990	48,222	31,768
	香港	722	451	271	922	789	133	753	644	109	1,304	1,230	74	10,304	9,746	558
	韓国	5,628	4,959	669	5,075	5,000	75	6,848	6,614	234	10,508	10,471	37	14,153	13,942	211
	フィリピン	2,286	2,170	116	2,417	2,400	17	2,446	2,434	12	2,157	2,157	0	1,735	1,687	48
	アメリカ	10,113	6,472	3,641	8,906	7,294	1,612	9,264	6,479	2,785	10,632	6,897	3,735	10,360	5,764	4,596
	その他	4,730	2,980	1,750	4,941	4,022	919	5,667	3,460	2,207	8,550	3,261	5,289	12,131	4,397	7,734

注1) 法務省大臣官房司法法制部編「出入国管理統計年報」に基づき沖縄県観光商工部(観光企画課)作成。

注2) 沖縄県内で各年1月～12月に入国手続をした正規入国外国人の人数。乗員等の特例上陸者数は含まない。

(2)観光客の動向

- 「(2)観光客の動向」は、特に断りのない場合、沖縄県観光商工部観光企画課「観光統計実態調査」(3年ごとの大規模調査分)に基づき作成しています。
- 平成19年度(小規模調査)の調査結果については、40ページからの「3 平成19年度観光統計実態調査」をご参照下さい。

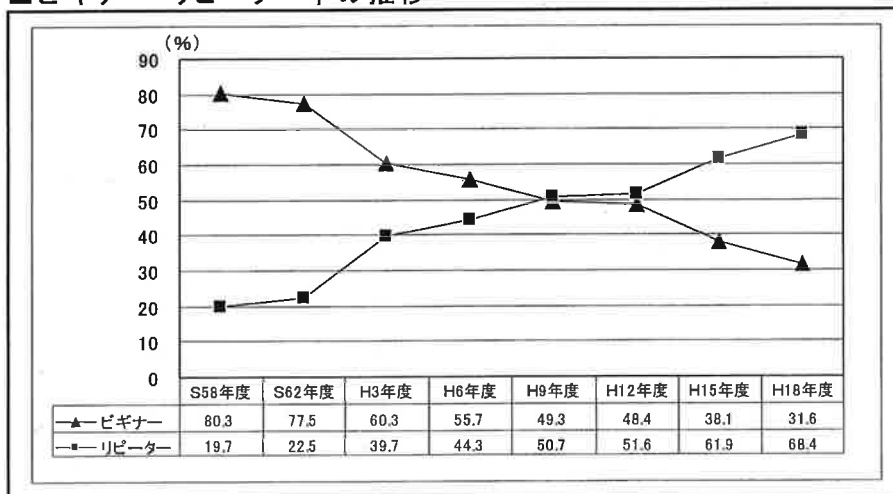
ア 来訪回数

平成9年度からリピーターがビギナーの比率を上回っている
沖縄来訪「5回目以上」の観光客が3割を超えている

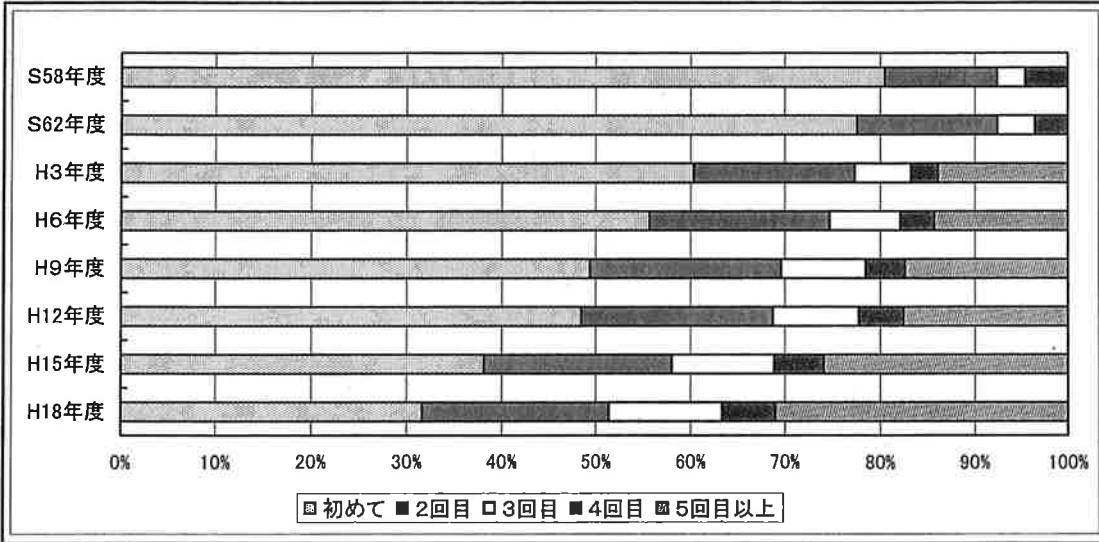
沖縄県を訪れる観光客のうち、リピーター(再来訪者)が年々増加傾向にあり、平成9年度からビギナー(初回来訪者)の比率を上回っている。平成18年度にはリピーターの比率は68.4%に達している。

沖縄県を訪れる観光客の来訪回数をみると、平成18年度では「5回目以上」の来訪者が全体の31.0%(リピーターに占める割合は45.3%)を占めている。

■ビギナー・リピーター率の推移



■ 来訪回数推移

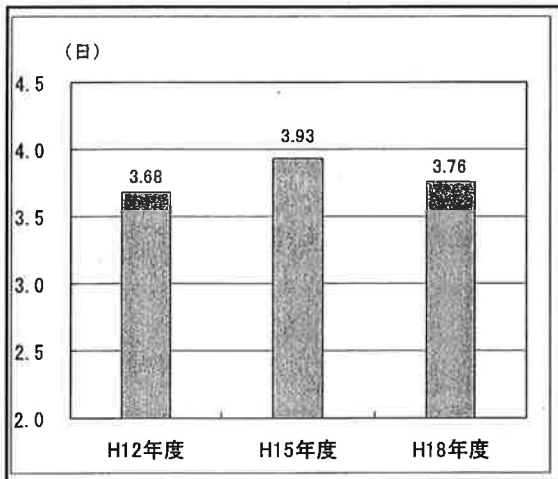


イ 平均滞在日数

観光客の平均滞在日数は伸び悩み、平成18年度では3.76日
「2泊3日」が主流となっている

沖縄県を訪れる観光客の平均滞在日数は近年横ばい傾向で、平成18年度は3.76日であった。滞在日数別の内訳をみると、2泊3日の比率が最も高く、平成18年度では41.3%となっている。

■ 平均滞在日数の推移



■ 平均滞在日数別内訳

滞在日数	平成12年度	平成15年度	平成18年度
日帰り (1日)	0.3%	1.0%	1.2%
1泊2日 (2日)	9.8%	9.7%	12.1%
2泊3日 (3日)	42.7%	40.6%	41.3%
3泊4日 (4日)	33.5%	33.4%	29.3%
4泊5日 (5日)	8.6%	8.9%	9.2%
5泊以上 (6日以上)	5.0%	6.4%	6.9%

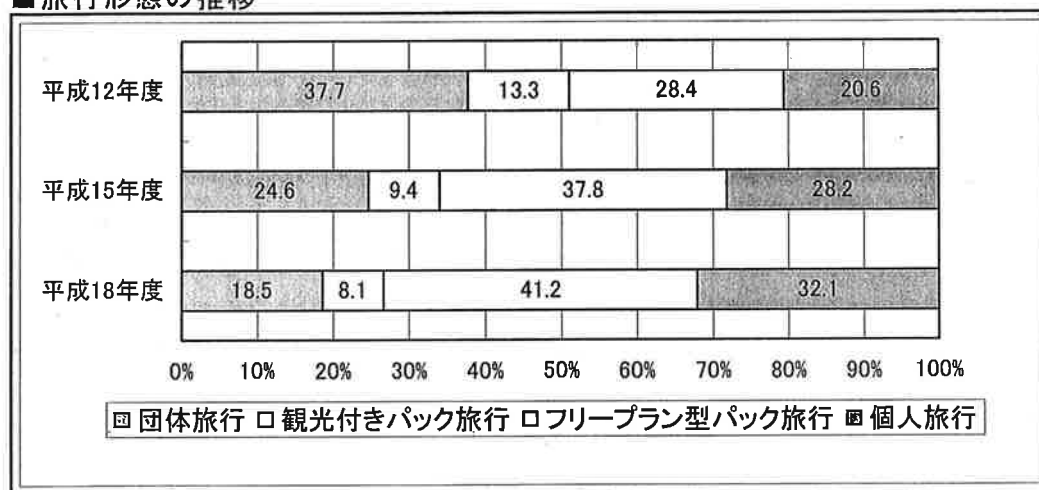
ウ 旅行形態

「団体旅行」、「観光付きパック旅行」減少 「フリープラン型パック旅行」、「個人旅行」増加

リピーターの増加に伴い、添乗員付きでスケジュールのほぼ決まった旅行形態である「団体旅行」、「観光付きパック旅行」が減少し、自由にスケジュールなどが組める旅行形態である「フリープラン型パック旅行」、「個人旅行」が増加している。

平成18年度では、「フリープラン型パック旅行」、「個人旅行」の合計は73.3%に達している。

■ 旅行形態の推移



エ 旅行目的の推移

観光地めぐり基本に、ショッピング、沖縄料理、海水浴・マリンレジャーなど人気

観光客の活動内容をみると、減少傾向にあるものの「観光地めぐり」の人気が依然として最も高い。次いで、「ショッピング」、「沖縄料理を楽しむ」、「海水浴・マリンレジャー」の人気が高くなっている。一方、「仕事」を目的とする人も平成18年度では12.0%になっている。

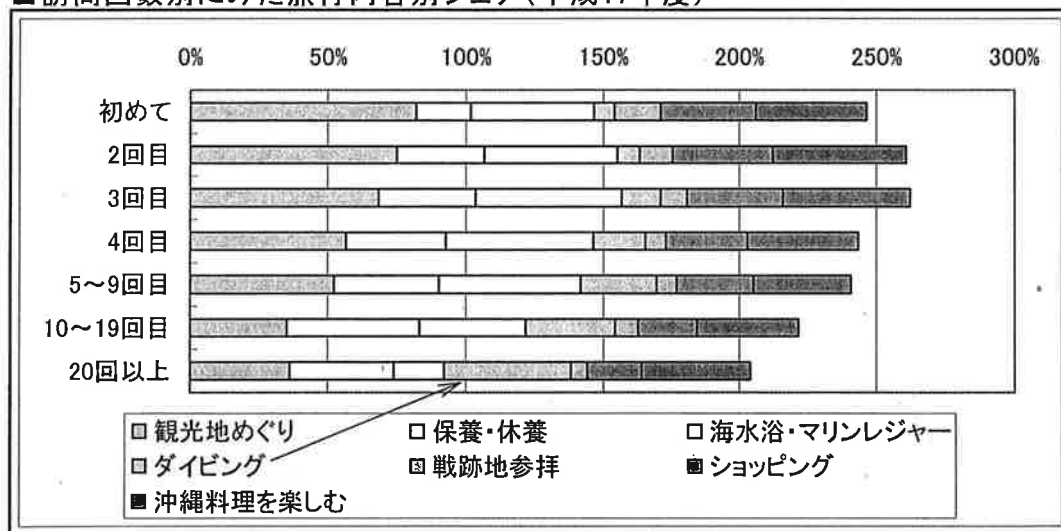
訪問回数別に観光客の活動内容をみると、訪問回数が多いほど「ダイビング」のシェアが増加している。

■ 旅行内容別シェアの変化

	H12年度	H15年度	H18年度
観光地めぐり	73.7	72.1	68.5
戦跡地参拝	19.8	16.3	12.4
海水浴等	28.5	34.1	25.1
マリンレジャー	17.1		
ダイビング	9.3	8.7	7.7
保養・休養	22.2	17.6	16.6
スパ・エステ	-	-	3.8
ゴルフ	4.8	4.1	4.5
釣り	2.9	1.7	1.9
キャンプ	0.8	0.7	0.5
エコツアー	-	1.4	1.3
ショッピング	33.0	44.4	33.3
沖縄料理を楽しむ	-	-	38.5
新婚旅行	-	1.3	1.6
ウエディング	-	1.3	2.2
会議出席・研修	9.8	6.6	6.6
イベント・伝統行事	4.0	4.0	4.6
仕事	8.0	11.0	12.0
スポーツ大会	1.8	1.5	1.8
帰省・親戚訪問	11.0	6.3	6.5
その他	3.9	4.9	3.7

注1) 複数回答

■ 訪問回数別にみた旅行内容別シェア(平成17年度)



資料出所) 沖縄県「平成17年度観光統計実態調査」

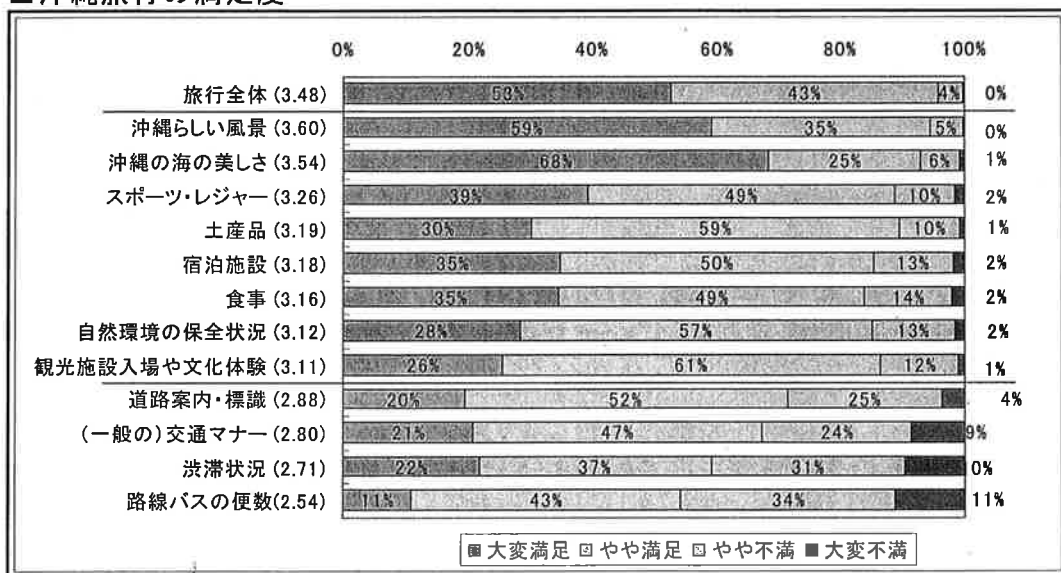
オ 旅行の満足度

「沖縄らしい風景」、「沖縄の海的美しさ」は高い満足度 一方、「路線バスの便数」、「渋滞」については不満度が高い

「沖縄らしい風景」、「沖縄の海的美しさ」という沖縄の観光資源に対しては、「旅行全体」よりも高い満足度の点数となっている一方で、「自然環境の保全状況」は、相対的に点数が低い。また、「観光施設入場や文化体験」、「食事」、「宿泊施設」、「土産品」などの観光メニューにおいても相対的に点数が低くなっている。

交通関係については、特に点数が低くなっており、「路線バスの便数」、「渋滞状況」などは、約4割以上が不満を感じている状況となっている。

■ 沖縄旅行の満足度



資料出所) 沖縄県「平成18年度沖縄観光客満足度調査」

(3) 主な旅行市場別の動向

ア リゾートウエディング

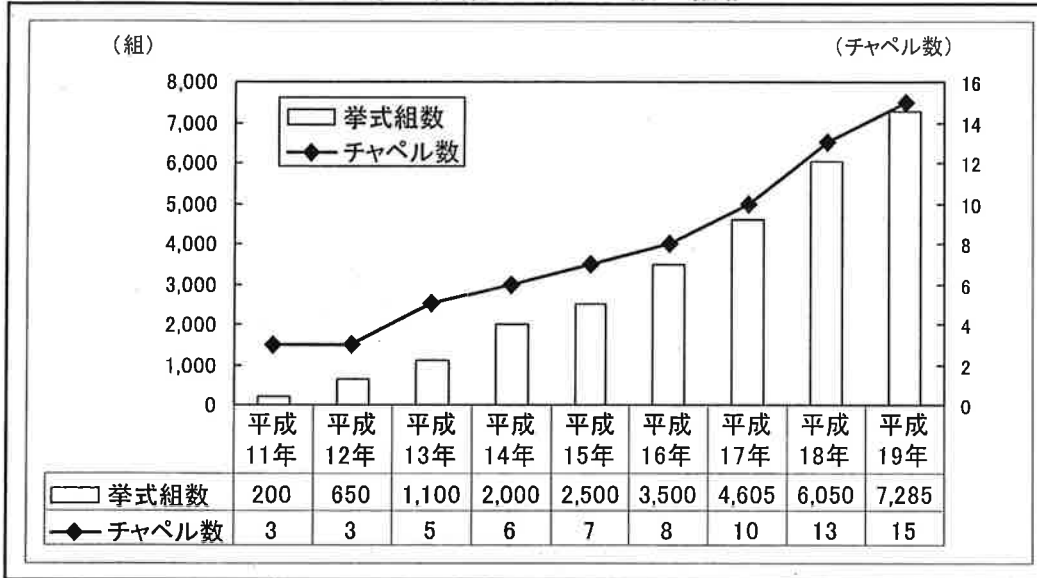
沖縄リゾートウエディング 平成19年は7,285組挙式で15万3千人来県

沖縄は、国内で人気の高いリゾートウエディングエリアとして注目を集めており、平成19年の挙式組数は対前年比+20.4% (1,235組増) の7,285組となり、好調に推移している。

増加の主な要因としては、チャペルやプロデュース会社の増加、マスコミ等の関心が高まっていることなどが挙げられる。

新郎新婦及び平均参列者数(19名)から試算すると、平成19年は、約15万3千人がリゾートウエディングに伴い沖縄を訪れたと推計される。

■ 沖縄リゾートウエディング挙式組数とチャペル数の推移



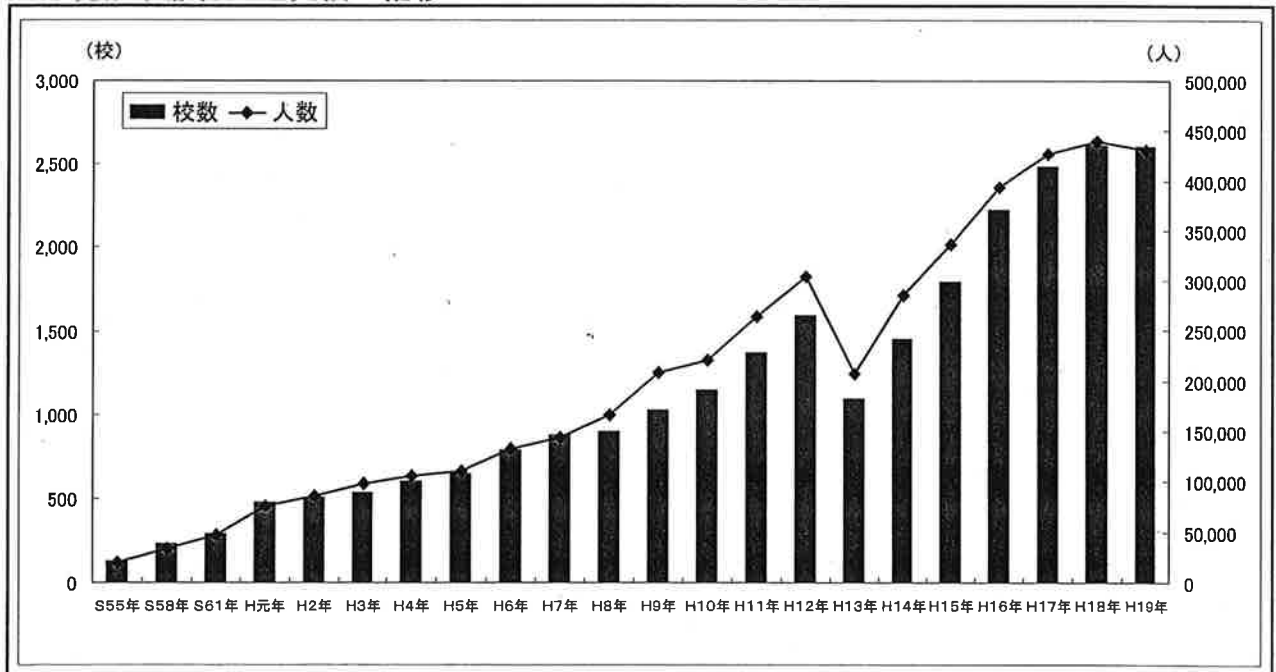
注) 沖縄県観光商工部(観光振興課)調べ

イ 修学旅行

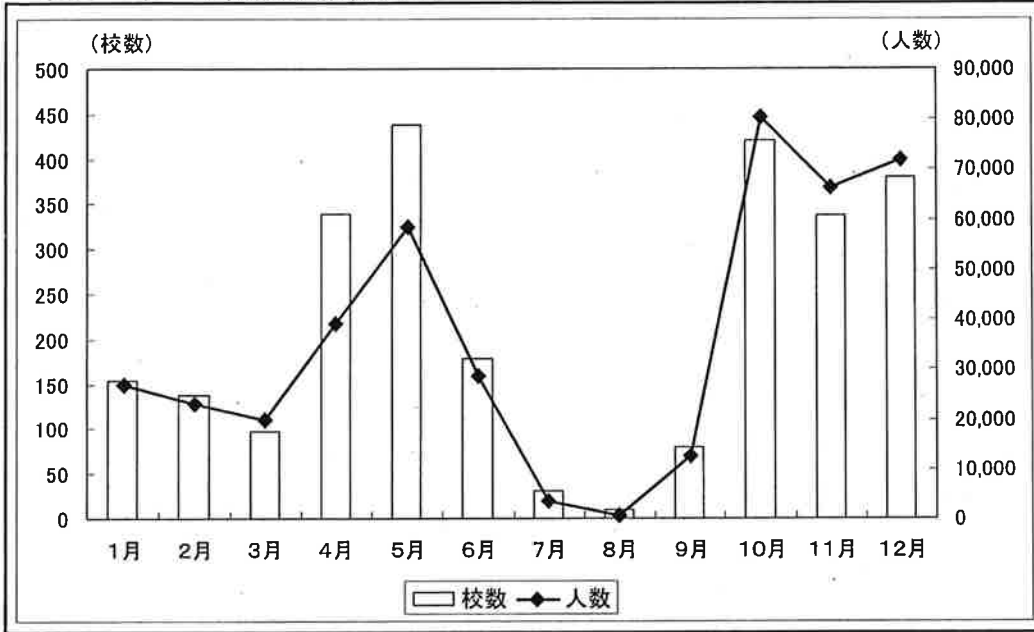
沖縄修学旅行 平成19年は2,603校、430,878人
沖縄修学旅行は沖縄観光シーズンオフ期のボトムアップに貢献

平成13年度には9.11テロ事件の風評被害により減少したものの、その後回復している。
 月別に沖縄修学旅行の入込実績をみると、4月、5月、12月など、沖縄観光のシーズンオフ期に多くなっている。

■ 沖縄修学旅行入込実績の推移



■平成19年 沖縄修学旅行月別入込実績



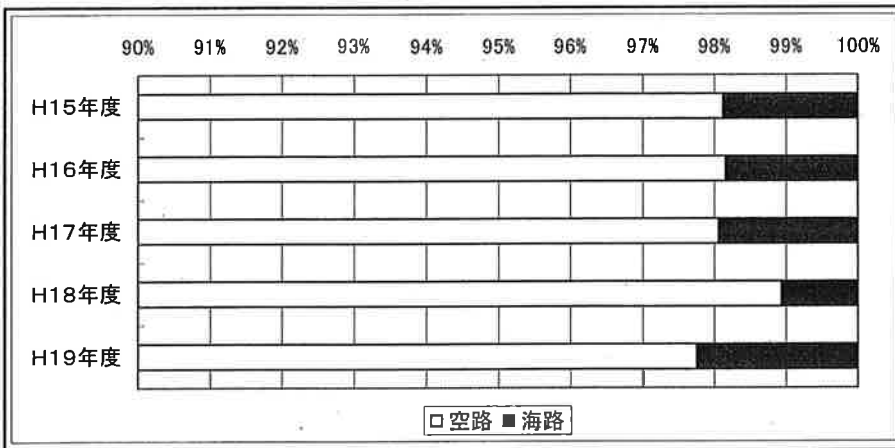
(4) 観光客の交通手段

ア 観光客が沖縄県を訪れる際の交通手段

沖縄を訪問する手段は、97.7%が航空機

観光客が本県を訪れる際に利用している交通手段としては、航空機が圧倒的に多く、平成19年度においては、空路による入域観光客数は全体の97.7%となっている。

■入域観光客数の空海路別構成比の推移



イ 国内航空路線及び提供座席数の推移

沖縄と国内各地を結ぶ航空路線は、平成元年度17路線→平成19年度31路線
航空提供座席数の増加に伴い、航空旅客数も増加